

日本経済新聞 2013年7月12日掲載（神奈川経済欄）

## ウィンドウズの遠隔操作 iPadで可能に

通信技術支援の三技協（横浜市）はタブレット（多機能携帯端末）のiPad上で米マイクロソフトの基本ソフト（OS）「ウィンドウズ」のパソコンを遠隔操作するシステムを開発、販売を始めた。米アップルのOS「iOS」上でウィンドウズのキーボードを再現、会社内のパソコン操作を可能にしたのが特徴。私物の端末も使え、既に金融機関など30社に販売した。

同社はこれまで、会社のパソコンを私物のパソコンやスマートフォンで遠隔操作するリモートデスクトップ機能を取り入れたシステムを2006年から販売。iPadやiPhoneではウィンドウズ独自の「Ctrl」「Esc」キーなどが使えないとのユーザーの声があり、iOS対応版を開発した。

専用サーバーからデスクトップ上の端末操作情報を私物タブレット端末などに送信、入力データもタブレット側でダウンロードすることなく送り返す。USBメモリーなどでデータを持ち出すと紛失の恐れがあるが、このシステムは遠隔情報操作終了後に記録が残らず、企業や官庁の機密精密情報漏洩リスクから守ることができる。

既に金融機関や出版社など、出張先から社内データを操作する必要のある業務向けに販売。約30社500ユーザーで利用されている。50人程度のユーザーで約180万円で導入出来るといい、私物端末で遠隔操作できる利点を生かし、企業向けの需要を拡大する。

(当社 PF-V Client for iPad ページはこちら)

[http://www.sangikyo.com/jp/article\\_service/article/pfv\\_ipad.html](http://www.sangikyo.com/jp/article_service/article/pfv_ipad.html)